

全国知事会「3 巡目国スポの見直しに関する考え方」に対する 有識者会議委員 意見聴取結果

(カッコ内の数字は同様の意見の数)

1 「国スポの開催意義」

- 開催意義を例えば、「アスリートの育成・活躍と開催地の魅力の体験を両立し、スポーツに関わる全ての人々が交流する大会」、「単なる競技会にとどまらず、スポーツ文化をけん引する展示会的な大会」などの方向に見直す必要性(6)
- 「トップアスリートの参加」と「全国的なスポーツの祭典」の両立は困難(4)
- より多くの国民、グラスルーツの方が参加できる大会(2)
- 県同士の競争からアスリートの競争への変更(2)
- 「社会人日本一決定戦」の大会に位置付け

2 「開催頻度」

- 毎年開催(11)
- 2年または4年に1回の開催(4)
- トップアスリートの参加を望む大会とする場合は4年に1回、選手の強化とする場合は毎年開催

3 「大会の開催時期及び開催期間」

- 柔軟な時期・期間の設定(7)
- 大会認知度向上のため、開催期間を設定する必要性
- 簡素化の観点からは期間の短縮
- 学生が参加しやすい時期(長期休業中等)
- 全国障害者スポーツ大会の実施時期も考慮した時期
- 冬季競技は3月中旬以降の5日間が望ましい

4 「大会形式及び総合成績・得点方法」

- オリンピックのような個人種目または団体種目での選手間競争(6)
- グラスルーツの国民の参加を得点化するといった得点方法の見直し(2)
- フェアプレー賞などの個人表彰やスポーツ成績以外の表彰を実施(2)
- 総合成績は付けず、各競技での都道府県対抗
- 開催都道府県のフルエントリー制の再考
- 本大会と冬季大会を別とする総合成績の算出
- 人口比を得点の計算式に導入

5 「総合開・閉会式」

- 式典の簡素化は必要(10)
- 開催都道府県の実情により、屋外ではなく屋内施設も可能とする(8)
- 屋内・屋外問わず2万～3万人収容可能な施設は各都道府県に必要
(スポーツだけでなく、防災の観点も含めた様々な角度で利用できる施設として活用)

- 式典を簡略化しすぎると、やる意味自体が薄れる
- 大幅な簡素化までは不要
- メディアがとりあげる内容を意識した式典の開催
- エンタテインメント性の有料プログラムの検討
- 炬火点火が必要なのか再検討が必要

6 「開催地及び競技施設」

- ブロック開催や固定化・聖地化することにより競技施設を有効活用(8)
- 持ち回り形式の維持に賛成(6)
- 複数都道府県による開催(4)
- 国スポのためだけの新設は不要、既存の施設の活用(3)
- オリンピックレガシーの有効活用は参加選手にとっても魅力
- 冬季大会開催地の聖地化
- 全国障害者スポーツ大会の開催を契機としたバリアフリー化

7 「競技会及び参加者等」

- アーバンスポーツや e スポーツの導入(3)
- 指導者、審判員の資格要件については、適正な競技会運営や、指導者、審判員の養成の観点から緩和することは反対(2)
- 競技団体が開催地で審判員を養成することが必要
- 指導者や審判のライセンスの緩和が必要
- 各選手が希望する都道府県で出場出来る仕組みづくり
- 参加人数と役員数の削減の検討

8 「財政負担の見直し」

- 企業協賛の活用(4)
- 大会にエンタテインメント性を持たせるなど、「稼ぎ」を生む仕組みづくり(3)
- 日本スポーツ振興センター助成事業の活用(3)
- 法人版ふるさと納税、クラウドファンディング等の活用(2)
- 国や日本スポーツ協会のさらなる財政支援(2)
- 入場料無料制度の見直し、関連グッズ販売、料飲販売の強化
- 設備投資の削減
- 選手、指導者、審判、関係者などの個人データ活用による収入増加策の検討
- 開催する団体みなが応分の負担をする覚悟で考えることが必要

9 「2 巡目への適応及び継続的な検証」

- 可能な施策については 2 巡目からの導入も検討(7)
- 現状の制度・運用でも新たに取り組めることはたくさんある
- 都道府県単位開催を見直すなら、2 巡目 3 巡目という考え方も見直すべき
- 開催県の実情だけでなく、選手への影響も考慮して適用可否の判断が必要